

ついに新型コロナウイルスに感染！

発熱外来は、炎天下 長蛇の列

加藤 良一

2022年8月17日

日頃、それなりの感染対策はしているつもりだったが、感染第7波を迎えた2022年7月、ついに新型コロナウイルス感染症COVID-19に罹ってしまった。

7月20日(水)、喉に違和感があったが、熱を測ると36.2度しかなかった。ところが、翌朝の起床時にだるさを感じたので熱を測ったら37.3度にもなっていた。これはかなり怪しい。

近くの発熱外来をあちこち探したが、掛かりつけ患者しか受け付けずと断られた。午後になってようやく探し当てたのがKメディカルクリニックだった。しかし、その日の受付はすでに終わっていた。また、発熱外来の予約は受け付けておらず先着順、受付開始は朝8時半からだが、行列ができるので早めに来るようにとのこと。いつも混雑しているらしい。

夕方体温を測りなおしたら38.0度にもなっていた。パルスオキシメータで動脈血酸素飽和度(SpO2)を測ってみると、91~93%でやや低値を示した。健常者の基準は96~99%の範囲である。

鼻腔から検体採取、抗原検査実施

7月21日(木)、Kメディカルクリニックには用心して受付2時間前の朝6時半ごろ着いた。待合室に入ると3番目だった。そこは20人分ていどの椅子が間隔を空けて並べられただけの部屋。あとは外へと並ぶ以外ない。8時半に受付開始となり、問診票に症状と駐車場の車を停めている位置を記入して提出。呼び出し用ベルを渡され、車内で待機するよう指示された。

建物を出ると、駐車場には受付待ちの人が100人以上の長蛇の列を作っていた。発熱しているのに炎天下で行列しなければならないとはなんとも厳しい状況だ。私は早めに来たお陰で室内で待っておられてよかった。一向に行列は進まなかった。マスクをしたまま、日傘も差さず扇子で扇ぐ人、持ってきた折り畳み椅子にぐったり座る人、お年寄りや子どもも混じっている。車で待つ子どもが吐いた汚物を汗だくになりながら掃除するお祖母ちゃん、私はエアコンを付けた車の中でじっとしていればよいので幸運な部類であった。

Kメディカルクリニックは内科、外科、リハビリが中心のベッド数19床と小規模だが、同じ敷地内に発熱外来専用の施設を新設し、通常の患者とは接触しないようになっていた。

車で待つこと30分。9時少し前によく呼び出しベルが鳴った。待合室とは別の入口を入ると検査受付口があった。そこはいわゆるパスボックスとなっていて、内部の看護師と直接対面しないように窓越しにマイクで通話する方式となっていた。やはり発熱外来専用につただけ

のことはある。

必要書類をパスボックス内に置いてこちら側の小窓を閉めると、それを確認してから看護師が内側の窓を開けて書類を取り出し受付は終了した。

検体の採取は隣接する検査室で行う。それは小さな前室を介して中に入る構造となっていた。前室は狭いうえに窓もない構造だった。閉所恐怖症の人は困るんじゃないかと心配するほどに狭かった。呼び出しに従って中へ入るとそこは看護師と患者が直に対面しないよう完全に遮蔽された透明のプラスチック張りの部屋になっていた。看護師はグローブボックスのような構造の向こう側におり、突き出たグローブで綿棒を操作し、鼻腔を拭って検体採取を終えた。

検査は、PCR法※ではなく、ウイルスがいるかないかだけをみる定性の抗原検出簡易法(イムノクロマト法)なので、15分もあれば判定ができる(はずだ…)

※ PCR：ポリメラーゼ連鎖反応(Polymerase Chain Reaction)。生物の遺伝情報をもつDNAを複製して増幅させる方法のこと。ごく微量な検体/サンプル(血液、組織、細菌、ウイルス等)であっても、そこに含まれるわずかなDNAから、特定の配列だけを短時間で増やすことで目的の微生物や遺伝子配列が存在しているかを知ることができる。

検査結果が出るまで、また車に戻って待機した。ところが1時間以上待っても呼び出しのベルが鳴らない。順番は前から3番目だったし、結果はとっくに出ているはずなのに。しびれを切らして窓口に行ってみたが、結果が出れば連絡するから待っているようにと、にべもない返事が返ってくるだけだった。

ついに陽性判明！

とうとう恐れていたことが起きてしまった。呼ばれて窓口に行くと、抗原検査の結果は「陽性」だったと事務的に宣告された。他にも多くの陽性者がいるから当然のことだろう。「陽性」が判明すると、そのあとはとくに診察もせず、所定の処方箋を出すだけ。それでクリニックの対応は終了してしまう。抗生剤、解熱鎮痛剤、咳止め、痰を切る薬剤、そして希望者にのみ処方する新型コロナウイルス発育阻害剤「ラゲブリオ※」という特例承認されたものが出された。副作用として催奇性が報告されているが如何しましょうと聞かから、構わないと答えた。

※ 新型コロナウイルス感染症に対する有効性や安全性の臨床試験の速報値において、有効性が報告されており、通常の承認申請過程を経ずに特例として承認された。1日に2回(1回4カプセル)、5日間服用する。かなり大きなカプセル入りで、これを4個も一度に飲まねばならないとは、まだ完成した製剤とは思えない感じだった。有効成分はモルヌピラビル、販売名ラゲブリオカプセル200mg。2022年6月「重大な副作用」として「アナフィラキシー」が追記されている。

4割が公費負担

診療費は初診にもかかわらず、薬剤料も含めて合計で1,900円と意外なほど安かったが、これは「医療機関がPCR検査等を実施した場合、検査実施料及び検査判断料が公費負担され」るか

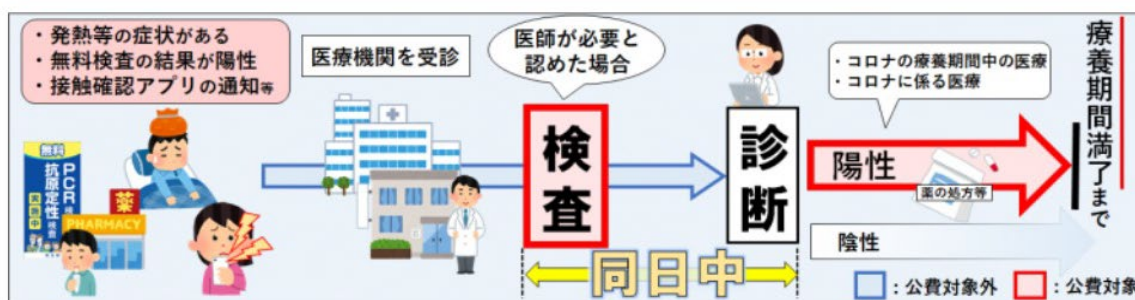
らで、簡易抗原検査もPCR検査等に含まれている。

ところで、細菌感染に使う抗生剤クラリシッドが処方されたが、新型コロナウイルスに効くかどうかはわかっていないはずだ。

私の場合は、当日中に検査結果が出たので、下図のように「検査実施料」、「検査判断料」、「処方箋料」「調剤料」が公費で賄われた。

3. 公費負担における埼玉県での取り扱い

3-1. 医療機関を受診し、その日のうちに検査結果が判明した場合《ケース1》



【公費の対象】

- ・検査に係る費用のうち『検査実施料』『検査判断料』のみ
- ・陽性の診断を受けて以降、療養期間満了までの間に受けた新型コロナウイルスに係る医療（例：処方箋料,薬の調剤料）
- ・陽性の診断を受けた日以降は、再診料やトリアージ料も含めて公費の対象

【公費の対象外】

- ・医師の診断を受けるより前に実施された医療（例：検査当日の初再診料,トリアージ料）

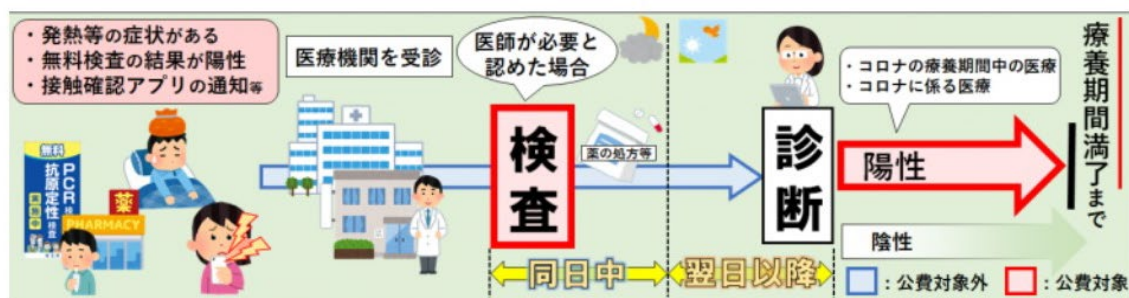
診療明細書には下のよう記載されていた。ただし、通常使っている明細書のフォーマットには「救急医療管理加算」を入れる項目がないので、再診料の項目に入れられていた。この点は医療機関によって記載方法が異なるかもしれない。

・初診料：	377点	
・救急医療管理加算：	950点	(臨時的取扱 COV・外来診療)
・医学管理 院内トリアージ実施料：	300点	
・二類感染症 外来診療・臨時取扱：	250点	
・検査器材 (SARS-CoV-2抗原検出定性)：	300点	
・検査判断料：	144点	
・検査 鼻腔拭い液採取料：	25点	
・処方箋料：	73点	
計	2,419点	(1点=10円) → 24,190円

➡自己負担は2割で4,838円のところ、実際は1,900円だった。2,938円が公費負担されたことになる。

検査結果が翌日以降の場合は下図のように公費対象範囲が変わる。

3-2.医療機関を受診し、翌日以降に検査結果が判明した場合《ケース2》



【公費の対象】

- ・検査に係る費用のうち『検査実施料』『検査判断料』のみ
- ・陽性の診断を受けて以降、療養期間満了までの間に受けた新型コロナに係る医療
- ・陽性の診断を受けた日以降は、再診料やトリアージ料も含めて公費の対象

【公費の対象外】

- ・医師の診断を受けるより前に実施された医療（例：検査当日の初再診料, トリアージ料, 処方箋料, 薬の調剤料）

薬は薬剤師が車まで配達

薬は同じ敷地にある門前薬局から薬剤師が車まで配達するというので、精算後ふたたび車の中で待機した。

薬剤師はマスクにフェイスガード、帽子、ブルーの使い捨てガウンを着て、たくさんの薬の袋を入れたカゴを持って駐車場の中をあちこち配達して歩き回っていた。炎天下の暑い中、たいへんご苦労なことである。ところが、私の薬の順番ははなかなか回って来なかった。けっきょく薬を受け取ったのは昼の12時半ごろとなった。

10日間の自宅隔離開始

帰宅後はそのまま自宅一階の部屋に直行した。そこから10日間の自宅隔離が始まった。

室内の二方向にある窓を常時50cmほど開け放し、換気扇とエアコンを付けっぱなしにして、室温調整と換気を行った。換気の指標としてCO₂メータでモニタリングしながら窓の開閉を調整した。

今更とは思ったが、家内とは極力接触しないように注意した。連絡はもっぱらLINEを通じて行い、食事はドアの外側に置いてもらっていたが、問題はトイレと風呂場が共通なことだった。その使用にはことのほか気を使った。もともと家のあちこちにアルコールなどの消毒剤を置いているので、小まめに消毒は心掛けたものの、何しろウイルスは目には見えない難敵である。

自宅隔離2日目には体温も平熱に戻り、SpO2もやや低めだが問題にならない範囲に落ち着いた。最寄りの保健所と自宅療養者支援センターから、体調管理について確認の電話がきた。

「感染者等情報把握・管理システムMy-HER-SYS」をスマホで登録し、自分で体調、体温、SpO2を入力するよう指示があったのでトライしてみたが、なんどやってもループ状態で登録できなかった。登録方法を問い合わせてもいちいち答えてられないといった雰囲気、これといった回答もなく、けっきょく毎日センターからの電話問い合わせに答えることで済ませることにした。

隔離のあいだに必要なものはないか、食料の宅配希望はどうかなどと聞かれたが、近くに住む息子に頼むから不要と断った。パルスオキシメータを貸し出すといわれたが、それはすでに自前のものを持っていると答えると驚きの声を上げていた。

手遅れだが、さらなる家庭内感染は防げるか？

家内は濃厚接触者であり見立て陽性者にちがいないが、保健所から感染経路や濃厚接触者に関する情報は一切聞かれなかった。すでに市中感染状態になっている現在、そんなこと調べても意味ないので当然であろう。家内は感染していたかもしれないが、とくにこれといった異常は見られず、私の看護に尽力してくれたのはありがたかった。

隔離3日目以後は、体調も問題なく、二階の自分の部屋からCDや本を持ち込んでぶらぶらしているだけだった。ちょうどそのころ、拙著〈コロナ禍の合唱『おんがく広場』はこうして生まれた〉の執筆がほぼ終わりかかっていたが、パソコンのある自分の部屋は使えないのでしばらく放置せざるをえなかった。

外出禁止によって、いくつかの予定をキャンセルし、先延ばしにするなど手続きが必要となった。隔離5日目の7月25日は、車検に出す予定にしていたが、接触を避けるため隔離が明けるまで延期とした。

ようやく隔離から解放、後遺症もなく回復

7月30日、自宅隔離が終了した。自宅療養者支援センターから最後の体調確認電話があり、このまま看護師などから問い合わせがなければ本日をもって終了すると言われた。

家内には大変な心配と苦勞を掛けてしまった。後日聞いたところ、家内は私が発症した頃に喉の不調と37.0度ほどの微熱があったが、他に症状もなくすぐに回復したという。後から考えると、あれはコロナだったと思っているとのことだった。

コロナには罹ってしまったが、今のところ後遺症らしきものもなく、体調はとくに問題ない。隔離明けの10日後に4回目のコロナワクチン接種を受けた！ もっと早ければ感染を防げたとも思えないが、とりあえず重症化を防ぐことができたを受け取るしかないだろう。

今や、「ハイブリッド免疫」なる語も現れている。これは実際の感染とワクチンによる免疫との両方がミックスしたものである。ワクチン接種と感染の回数が多いほど免疫レベルもおおむね高いといわれている。


**Back**[虫めがねTopへ](#)**Home**[Home Pageへ](#)